

ブックスタートへの想い

境港市子育て支援事業のひとつ、ブックスタート事業に携わって早いもので15年がたちました。

毎月、約20組前後の月齢6か月目の赤ちゃんとお母さんたちが、市保健相談センターに集まります。そこ

は、赤ちゃんから放たれる正真正銘の初々しい明るい柔らかなエネルギーでいっぱいです。

おむつや授乳のための荷物を抱えたお母さんたちや少し不安そうな新米のお母さん、兄姉をつれた育児真っ最中のお母さん、ちらほらと混ざったお父さんやおばあちゃん達で、にぎやかであたたかな雰囲気です。

はじめは、声のする方を見るだけの赤ちゃんが、だんだんと声に反応しだし、やがて、自らも声を発します。お互いの反応を共有し、さらに盛り上がっていく一体感の楽しさと喜び。お姉ちゃん、お兄ちゃんが赤ちゃんとお絵本で遊び、お父さんが読み聞かせにチャレンジしたりと、それぞれが絵本をきっかけにして、赤ちゃんとお母さんと共有感をもつ楽しいひと時があるようです。これからも、赤ちゃんの心と体の健やかな成長と育児に関わる人々を少しでも支援できるように、ブックスタート事業に携わってゆきたいと思えます。(司書 阿部美恵)

15年前に境港で「ブックスタート」が始まった頃には、どういうものかご存じない方が大半でしたが近年の6ヶ月検診時には、すでに絵本に親しんでおられる方が多くみられ、この運動が浸透してきたことが実感できます。今後も、多くの方が一冊の絵本を介して家族の絆を深めていっていただきたいと思えます。(司書 足立令子)

ブックスタートの開始から、図書館にも赤ちゃん連れのご家族が増えたように思います。赤ちゃん絵本もますます充実させていきたいです。(司書 景山美南子)

ブックスタートで絵本のページをめくるたび表情豊かに反応する赤ちゃん。保護者の方ともあたたかい時間が過ごせて読み聞かせの大切さを感じます。(司書 金田 望)

ブックスタートのカバンを持って図書館に本をかりに来る子どもの姿を見ると活動の広がりを実感します。(司書 景川里沙)



読書まつりで「読みメン」を体験しました。

国際交流員の趙(チョウ)さんと私が、「中国語で書かれた絵本」と「日本語で書かれた絵本」を交互に読みかきせをする、初めての試みでしたが、たくさんの親子の参加がありました。特に感性豊かな小さい子どもさんの集中力に感動しました。

図書館長 松本修一



22



地域子育て支援センター ひまわり えほんのへや

開設について

市立ひまわり幼稚園が少子化のため閉園となり、その後の施設利用については市民の有志から市民図書館の分館、特に子ども図書館としての利用要請が出されていました。

結果的には、市内で2カ所目の子育て支援センターとして全館利用されることになりましたが、要請が一部汲まれた形で、このような施設には珍しく、一室を完全な読書室として整備され、職員の配置もされました。

開設は平成23年4月で、6月からは本の貸し出しも始めています。

なお、市民図書館から3か月毎の入れ替えで200~300冊借り受け、こちらも同様に貸し出しをしています。

蔵書について

当初は、ひまわり幼稚園からの既存図書と予算購入とで1060余冊での開始でした。

それ以後の5年間に、各種団体と個人からの寄贈により530余冊、個人と職員からの寄贈が240余冊という内訳で、現在の蔵書数は、約1800冊となっています。

その他、大型絵本14冊と紙芝居75巻がありますが、こちらは個人貸し出しはしていません。



23